

オンライン語り部・遠隔授業

オンラインプログラムにご興味をもっていただき、ありがとうございます。当館で「語り部」を務めている川崎と申します。私は中学生の時に被災し、県外の大学に進学後、釜石の地に戻り当館に勤めています。

本プログラムでは、ZOOMを使って当時の経験をお伝えしています。小中高生だけでなく、企業や自治体の方など幅広くお申込みいただいているプログラムとなります。



「未来館に来館される方が減っても、震災を風化させたくない。」

2011年3月11日に東日本大震災が発災以降、毎日変わらず時は流れていきました。

その間に街は復興に向かい、私たちは元の生活を取り戻しつつあります。しかし、あの日の出来事を風化させ、更なる悲劇を生むことは避けなければなりません。その使命の下、私たちはこの「いのちをつなぐ未来館」を運営しています。

しかしコロナ禍において、当館になかなか足を運んでいただくことが難しい状況が続きました。私たちはそんな背景から、オンラインでのプログラム提供を開始しました。

「私たちは『釜石の奇跡』ではなく『釜石の出来事』と呼びます。」

世間からは、児童生徒の非常に高い生還率が「釜石の奇跡」と呼ばれていた時期がありました。しかし私たちは「奇跡」という言葉は適切ではないと感じています。その理由は、二つあります。一つは「奇跡」という言葉の裏側には「小中学生のほとんどが助かった一方で、多くの大人、特に高齢の方が亡くなってしまった」という事実があり、防げた・防ぐべきだった出来事があったという点。もう一つは、高い生還率が「奇跡」ではなく、日々の備えの積み重ねがあったからこそその「必然」とも考えられる点です。

当日は、この出来事の裏側についてもお話したいと思います。

「自然災害は必ず来る。その被害を少しでも減らす助けになりたい。」

自然災害は誰もが遭遇する可能性のあるものです。しかし、いつ来るか分からない脅威に対して、準備を万全に期することはとても難しい。一方で、災害に備えることで減らせる被害は必ずあります。私は自らの経験から、その備える大切さを実感しています。私がりアルな経験をお伝えすることで、皆さんが身近な災害の可能性について少しでも考えるきっかけにいただけたら幸いです。

「皆さまのご要望に応じてお話いたします。」

オンライン語り部の標準の所要時間は1時間です。内容は震災の概要と私が経験した「釜石の出来事」と呼ばれる小中学生の避難行動、震災前から取り組んできた防災学習について45分程度、その後、質疑応答を15分程度設けております。

内容や時間はご要望に応じて調整可能なため、申込書の「ご要望」欄をご活用いただければと思います。皆さまとお会いできることを楽しみにしています。

詳しい料金・申込方法に関しては、ホームページに掲載の「申込要項」および「申込書」をご参照ください。